

鹿児島の昆虫47

寒さに耐える昆虫

昆虫担当 金井 賢一

アゲハチョウはサナギで越冬し、モンキチョウは幼虫で、ルリタテハは成虫で越冬します。長い間その土地で生活してきた昆虫は、寒い冬をのりきるために耐性の高い越冬態をもち、身体の中の働きを抑えてやり過ごします。そのために、秋になれば成長を止め



成虫越冬するリュウキュウアサギマダラ
(奄美大島)

て決まった成長段階でとまります。しかし、南方から進出してきた昆虫は越冬態を持っておらず、さまざまな成長段階で冬に入ります。段階によって耐寒性が異なっており、無事に越冬できるものもいれば、寒さで死ぬものもいます。分布を拡大している種

は、そんなギリギリのやりとりの中で定着を勝ち取っているのです。

2003年に私が調べたカバマダラでは、終齢幼虫など大きな状態で12月に入ると、暖かい冬の日にはエサを食べて成長し、2月までにはサナギになりました。しかし、その後低温や乾燥のためか、どのサナギも死んでしまいました。2齢幼虫などの小さな状態で12月を迎えたものは、ゆっくり成長し3月頃サナギになり、越冬した個体が現れました。

2014年12月、喜界島で観察したオオゴマダラは、卵～終齢幼虫、サナギまで全てのステージが見られました。

その後どの成長段階のものが冬を越せるのか、誰もまだ調べていません。「世界で初めての大発見！」に、現在喜界島の小学校が挑戦中です。



オオゴマダラ1齢幼虫

鹿児島の動物38

アリアケギバチ

動物担当 池 俊人



日中、石の下にひそむアリアケギバチ

アリアケギバチは、ナマズ目ギギ科に属する淡水魚です。全長は約20cmで、8本の口ひげをもっています。背^{せびれ}や胸^{むなびれ}には太くて鋭いトゲがあります。不用意につかむと刺されることがあるので、触れるときは注意が必要です。

夜行性であり人目につきにくく、昼間は

石の下や、岸辺の植物の根の隙間などに潜んでいます。闘争心が強いのか、同じ水槽で他の魚と一緒に飼育をすると、同種・他種に関わらず、他の魚を攻撃して追い払おうとする行動が見られます。

本種は、九州西部の河川だけに分布していて、県本土では、薩摩半島の河川の上流から中流にかけて生息しています。川内川、八房川、別府川、網掛川などの河川が主な生息地として知られています。甲突川には1930年代に生息していたことが知られていますが、戦後は確認されていないので、残念ながら既に絶滅した可能性が高いようです。護岸工事などにより、本種の生息に適した川底や川岸が減少したためだと思われます。

このように、近年生息地や個体数の減少が心配されており、環境省と鹿児島県のレッドリストとともに、絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。博物館では今後、本種の生態や県内での生息状況を調べていきたいと思っています。